



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

### 鶴岡ロータリークラブ

### TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 25775

会長	小松	松川	広	穂
幹事	皆上	川野	英	二
会報委員	上高	橋山	三	郎
	内板	垣	耕	二
			喜	一
			俊	次

---

No., **1045** 1980. 2. 19 (火) (曇) No., **32**

---

### ウインター紹介

市村敏行君	道路舗装	一仙台北R.C	
菅原年雄君	建設	齋藤吉雄君	陶管販売 } 鶴岡西R.C 金物配布 }
林権之助君	電気器具販売	佐藤成生君	
伊東太一君	貸倉庫	一上ノ山R.C	

### 会長・幹事報告

皆川英二君

1. 1980~81年度ロータリー全国会員名簿必要の方は事務局迄  
(価格 2,300円 送料別)

# LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で 道を照らそう

## ◆ 75周年記念講演

### 講師紹介

三井賢二君

2月23日は、国際ロータリー創立75周年の記念すべき日であり、その一週間以内に記念行事を行うよう要請があります。

今日は次期ガバナーであり、米沢ロータリークラブのチャーターメンバーである浜田耕一先生をお招きし、記念講演をお願い致しました。

当クラブでは75周年にちなみ、昨年7月に1人15ドルの基金を送金し、又当クラブ20周年を兼ねて鶴岡公園に「友愛の泉」という憩いの池を寄贈、外に「市民憲章」の表示板を贈るべく近々着工の予定です。

ここにおられる浜田先生は、米沢 R.C のチャーターメンバーであるとともに米沢 J.C の初代理事長をも勤められ、又日本で一番最初の自家用飛行機の操縦免許取得者でもあります。今日は「地方の時代とロータリー」という題でお話いただきます。

### 「地方の時代とロータリー」

浜田耕一先生

鶴岡ロータリークラブにお招きをいただきお話しすることは、誠に潜越千円で先輩のバスターガバナーをはじめ古い会員多数がおり、ロータリーの話をすればたちまち馬脚を現わすのではないかと緊張して、昨夜はまんじりともしませんでした。

さてロータリークラブ75周年にガバナーノミニエの指命を受けましたことは誠に光栄でございます。

この75周年に際し、ロータリークラブを振り返ってみることで今後ロータリーがどう発展するのかという道筋を考えてみたいと思います。

私は1905年という年は、丁度今とよく似た時代ではなかったかと思えます。18Cのヨーロッパは、ロマンの精神豊かな時代でした。19Cに入ると、蒸気機関の発明により産業革命が起り、科学技術が一段と発達し、資本主義社会が現出し、金の力が人間の生活を左右するようになりました。一方ではその反作用として社会主義が起り、次々に波及して1905年にロシアでは第一次革命が発生、丁度これがロータリー誕生の1カ月前のことです。もっともこの第一次革命はニコライⅡ世により3,000人のデモが軍隊の手で制圧され失敗しております。又この年、長年の懸案だったシベリア鉄道の完成をみております。

日本は、日露戦争の最中でロータリー記念日の20日後には奉天の大会戦が行なわれています。

ヨーロッパでは、英国労働党が1906年誕生、仏では1905年統一社会党発足、さらにこの年ローマ法王の大きな反対を押し切って政教分離法を成長させました。

独では1890社会民主党創設、エルフルト綱領によりマルクス主義を採用することになりました。

このようにヨーロッパにおいて社会主義政党が続々誕生した時に、ロータリークラブがシカゴで生れたのです。

一方20Cになると科学技術の素晴らしい進歩がありました。我々の少年時代の空想が次々と実現しました。例えばウサギが餅をつくという童話を聞いていた月に行って土を持ち帰ったり、手を延ばせば土星も火星も夢ではないという宇宙科学時代の幕明けがありました。又最近のエネルギー危機にからみ第三の火といわれる原子力が真剣に考えられています。そしてこの2つはロータリー誕生と相前後してその原理が発見されたものです。

まず宇宙時代の幕明けは、1903年ライト兄弟の飛行機が300 m程飛んだのに始まり、一方原子力は1905年アインシュタインの相対性原理の発表に源を発する訳です。

ポール・ハリスが、3人の仲間と会談したその時、彼の心には友愛を深めよという気持だけで、超我の奉仕という理想はまだ育っていません。しかしその後いま申し上げたような社会的基盤の変化があり、超我の奉仕が我々の職業生活の中でいかに大切であるかに気付き、社会的必然性を背景に今日80万人を擁するロータリークラブに発展してきたのです。そしてこの80万人の情熱が資本主義社会を支える大きな役割を果たしてきました。

ご承知の通りロータリークラブの奉仕に対する路線上の問題からライオンズクラブが分離し、両クラブとも奉仕と友愛を旗印にして運動を続けてきました。そしてこのような運動に戟激され青年会議所やその他の団体の発足をみましたが、これら諸団体の運動の究極的狙いは資本主義の擁護であります。資本主義社会を順調に発展させること、これがロータリークラブの一貫した考えであります。

私は一昨年の天童大会においてガバナーノミニーに推薦されました。

私は、仕事の面ではまだ現役、1年余も仕事を離れるということで大いに迷い、又大正と昭和の境目に生れた又工的存在の私でも指名された時は非常に緊張しオロオロしてしまいました。その時私の友人曰く「国際ロータリーの役員は所詮二流の人間だ。緊張する必要はない」というのです。二流とは何かを考えてみました。ロータリークラブの役員の方々にもっと強烈な野心があれば、社会奉仕ということをもっと高い次元で実現していこうとするだろう、恐らく政治を志さずのを留めることはできないだろうと思うのです。我々が社会奉仕とは何ぞや、コミュニティーサービスとは何ぞや、と考えるとき根本的には都市計画とか福祉政策というものから目をそらす訳にはいかない筈であります。この意味で私は二流だ、何故なら政治に野心がなかったからであります。私は小さいことを一生懸命やる二流でもよい、こう解釈したら気が楽になりました。

さて昨日米沢から鶴岡に車でまいりました。米沢一福島間が1時間ですが山形まで2時間、さらに鶴岡まで3時間、都合5時間を要しました。同じ県内で

もこれが現状です。

今「地方の時代」と云われながら鶴岡は恩恵を受けているか、米沢はどうか両方ともまだまだという感じです。何といたっても住み良い地域社会とは、人の心が暖かであることは当然ながら、住み良さ便利良さは交通体系に負うところが非常に大きいのであります。そこで提案したいのですが、今までロータリークラブは政治に関与しないことが鉄則であった訳ですが、これからは政治に関与しなくとも、政治的発言は大いになすべきだと考えております、地域社会においても同様であり、それが究極的にはコミュニティーサービスにつながります。

今鶴岡に最も欲しいものは空港であります。現在東北新幹線が工事中ですが、建設費は3年前でK当り47億、東海道新幹線がK当り3億の建設費であれだけ本数を走らせているのと思いを合わせると、採算的に非常に問題があり当地方では不可能だと考えざるを得ません。鉄道に代るものは道路、高速道路酒田線が近々開通し鶴岡はその恩恵を受けることとなりますがそれだけで十分でしょうか。陸の孤島のような鶴岡では空港が必要です。

私は、戦後航空法が制定されまして免許切替になったとき自家用免許の第1号をもらいました。私の前に220人おりますがこれは全てプロで私が221番です。操縦免許は、下から自家用、事業用、上級事業用、定期運送用とあり、当地に有縁の及位さんは私より早い事業用免許かと思えます。

さて、飛行機のような重いものが何故飛ぶのか、私は時々それを考えて悩むことがあります。空に浮かべば必ず落ちる、引力に逆う訳には行きません。だからこそ人間は努力して落ちないように工夫します。昭和45~46年頃以降の飛行機には安全装置が付き、例えば747型では3重の安全装置が装備されており、操縦士に事故があっても大丈夫なようになっております。又自動操縦装置もあり、成田からハワイのような小さな島まで真直ぐ飛ぶことが出来ますが、これは電波だけでなく飛行機に搭載しているコンピューターのおかげです。

私が昭和34年に欧州に行った頃は、プロペラ機で北極回りは未だなく、南回りの島伝いに台湾、ホンコン、サイゴン経由でした。しかも殆んど有視界飛行で、それが出来ない時は屋根の覗き穴から六分儀で航空士が太陽か星を計測し位置を確めるという飛び方でした。今やコンピューターに代られました。

今乗っているセスナ機にはそれがなく、腕と感に頼る牧歌的な楽しいものです。ジャンボ機とすれちがう時、相手はコンピューターに使われ、ライン上しか飛べない可哀想な奴だ、こちらは自分の思う通りに飛べる誇りを感じる。例えばスポーツカーの運転手がバスの運転手をみるような優越感を感じます。

セスナ機は危険か、否、決してそんなことはない。エンジントラブルで落ちたという話は聞いたことがない。ガソリンをつめずに飛び上がりガス欠で落ちたという話はありません。

慣れから油量を確めずに飛ぶことがあるのです。もう一つはカメラマンを乗せたときによく事故があります。カメラマンはいい写真を撮りたいために「も

っと近寄せ」とか「もっと傾けろ」とか無理を要求してきますが、操縦士の方でもうっかりメーターから目を離し目標物に気をとられ、失速したり、電柱にぶつかったりします。一定の高度を保っていればこれ程安全なものはありません。

仮にエンジントラブルが起ったとしても、キャブレターが2つ、電気系統も2つ備えられ、1つのシリンダーに2本のプラグがついて発火するようになっています。それでも落ちる時のために、免許取得のときは不時着の練習ばかりやられます。

セスナであれば200m位の空間があれば良く、時速60~70Kの自動車並みの速度で、安全ベルトを締め、バンヤの入った救命胴衣で頭と足をガードし、怪我もなく降りられます。ですから墜落することは考えたことがなく、旅客機に乗った時などはどんな天候でも、どんなにゆれても安心して乗っていられます。

最近では省エネ時代ですが、この点から飛行機はどうかと申しますと極めて省エネのだと思います。ゴルフを例にすればゴロどころがすのとナイスショットで飛ばす差と同じことです。今仮に同じ重さの鳥と獣と魚が同じエネルギーを費消してどれが一番遠くまで行けるかというそれは鳥です。空を飛ぶものは磨擦が少なく、しかも空気を利用して前に進めるのです。例えば全くエネルギー源を持たないグライダーを考えれば理解いただけると思います。

具体的に4人乗りのセスナ機で申しますと、燃料は1斗缶5本で4~5時間飛べますが、消費量1時間1本20立で時速300Kとすると東京近郊に行くことが出来ますが、4人乗りの自動車ではそうはいきまずまい。ジェット機はさぞかし燃料を食うと思われるかも知れませんが条理はセスナと同じことです。

そんなことで最近物を輸出する場合、船便より航空便の方が安いということが現われています。例えばカメラを輸出する場合、船便であれば厳重な荷造り、通関、荷役、保険など物流コストが中味と同額位になってしましますが、航空便なら荷造りなし、通関代行料なし、荷役なし、しかも時間を要しないので金利負担なしということなのです。その結果通関額から云えば、東京港、神戸港、そしてかつての羽田空港、その次に横浜港が続きます。

横浜、神戸は貿易によりその後背地に百万の人口を養ってきました。羽田は東京の中に埋没して来ましたがこれが成田に移りましたのでその背後地に百万の人口を養う力があると見込まれます。

空港の新設にはこのことも併せて考える必要があります。飛行場のある天童は県内一番の人口増加率を示し、又仙台空港を持つ名取市周辺の発展は目を見張るものがあり、新潟、秋田空港の場合も同様であります。空港が有ると無いとではどれだけ違ってくるかを考えていただきたいのです。

庄内に作るとすれば秋田、新潟に負けないようなもの、滑走路は延長2,000m巾300mで横風を受けぬように東西にする必要があります。空港誘致の反対運動は、騒音問題よりも学区を二分するということが大きいので、作る場合は行政区画の中間、例えば最上川の河口周辺とかが良いように思う。道路は人間の

住む場所を通すので買収費が高くつくが飛行場はそういうことはない。

又最近には飛行機も年々省エネ低公害型が開発されており、燃料消費量、騒音ともに以前の半分位までになっております。

さて結論として申し上げたいことは、皆さんもっと政治に大胆に発言して、住みよいコミュニティーを作ること、金持ちケンカせずというような態度はあってはならぬのであり、従来それがロータリアンである、紳士であると誤解しているむきがあったように思われますので、これからは云うべきことは云い、少しでも地域社会を明るく住みよいものにするよう、ロータリーのエネルギーを結集してまいりたいと思います。

### ◎ 2 月結婚記念日

石 原	惇 君	S 31. 2. 22
野 村	敏 行 君	S 30. 2. 25
中 江	亮 君	S 22. 2. 1

### ◎ 米 山 奨 学 会

¥ 20,870

### 出 席 報 告

本日の出席	会 員 数	71名	欠席者	秋野君、阿部(与)君、飯白君、金沢君、黒谷君、熨斗君、笹原君、佐藤(昇)君、高岸君、玉城君、手塚君、内山君
	出 席 数	59名		
	出 席 率	83.10%		
前回の出席	前回出席率	76.06%	メンバー	石井君、黒谷君、三井(徹)君、中村(富)君、佐藤(昇)君、佐藤(順)君一鶴岡西 R.C
	修正出席数	60名		
	確定出席率	84.51%		